

アナリスト向け中期経営計画 2026 進捗説明会 議事録

日時：2024 年 11 月 6 日(水) 13:00～14:30 Web 配信

登壇者：代表取締役社長

井川 伸久

取締役副社長執行役員

片岡 雅史

取締役専務執行役員 食肉事業本部長

前田 文男

常務執行役員

加工事業本部長

松本 之博

執行役員

海外事業本部長・事業統括部長

伊藤 忠明

○中期経営計画 2026 進捗説明会資料

11/6「ニッポンハムグループ中期経営計画 2026 進捗説明会」参照

https://www.nipponham.co.jp/ir/library/briefing_session/pdf/20241106.pdf

○質疑応答

Q1. 中計 2026 における資本効率改善の進捗について

A1. 資本効率の向上を最重要課題と認識し、ROE8%を目指して収益性の改善を進める。具体的には、加工事業での生産再編や食肉事業での在庫効率化を進め、全社レベルで各事業特性を鑑みながら投下資本圧縮を図る。また、グローバル CMS 活用や自己株取得を通じた負債資本の是正も継続する。

Q2. 中計 2026 における構造改革関連費用について

A2. 固定資産の減損等は今期 50 億円程度を見込むが、一部が期ずれの可能性もある。工場閉鎖に関しては固定資産を中心とした損失の計上を見込んでいる。来期については構造改革の継続により、固定資産等で 40 億円程度を見込んでいる。

Q3. 来期の事業利益計画 540 億円について

A3. 来期の 540 億円の目標に対しては順調に進捗している。加工事業の構造改革が進み、来期からはライン削減や新商品の発売等、成長戦略、構造改革共に効果が拡大する。食肉事業もフード営業力の強さや相場の反転も見込まれる。海外事業も豪州での牛肉生産量の拡大や米国、ASEAN での鶏肉加工品販売の拡大に向けた施策が進行中である。

Q4. 加工事業本部における構造改革の進捗について

A4. 既に効果が発現しており、シャウエッセンの伸長や低収益商品見直しで商品ミックスの改善が進んでいる。一方で、デリ商品の販売数量には課題がある。シャウエッセンで成功している外部メーカーによるマーケティング戦略を水平展開し、ブランド力を向上させ販売数量の回復を図る。来期も低収益商品の見直しを継続し、商品ミックスの改善を継続する。合わせて、製造ラインの削減効果も大きく発現し始める。

Q5. 食肉事業本部のさらなる収益力向上に向けた取り組みについて

A5. 将来的には食肉事業の事業利益を 500 億円レベルに引き上げていきたい。そのために収益力の向上が必要とな

る。輸入は AI 予測の活用や在庫回転率の徹底で、以前ほどの影響は受けなくなった。ボラティリティを無くすことは難しいが、今後も在庫管理を徹底し低減を図る。販売はブランド食肉の販売強化や消費者の購買に繋がるマーケティング戦略が重要となってくる。フード営業による加工品販売や JA 全農との事業連携等、バリューチェーンを構造的に変革していく。

Q6. 持続的な成長に向けた基盤づくりについて

A6. 挑戦する風土醸成に向け、現状を改善するため、浸透活動を継続し課題を自ら確認した。チャレンジングな人材を積極的に登用できる仕組みを作り、時間をかけて挑戦する風土を醸成していく。

Q7. JA 全農との取り組みについて

A7. 当社の販売力と JA 全農が持つ国産畜産物を掛け合わせたサプライ体制を構築したい。来期以降は新商品開発や、和牛輸出強化によるトップラインの伸長、物流コスト抑制、生産性改善、新規投資の抑制等で来期以降から徐々に共創による効果発現を目指していきたい。新商品開発については、来年の展示会で JA 全農とのコラボ商品を紹介する予定である。

以上